

ず手術の前に、あなたのがん細胞にウイルスの酵素の遺伝子を入れてから、抗ウイルス剤を4週間毎日点滴注射し、その後、手術によって前立腺を摘出し、再発の予防につなげることを目標とします。

培養細胞や動物を使った実験の結果からは、がん細胞にウイルスの遺伝子を入れてから抗ウイルス剤を投与すると、がん細胞の増殖を抑えたり、がん細胞を死滅させたりすることがわかっていますが、患者さんでも同様にがんを小さくする効果があるかどうかは、まだ研究段階のため確実ではありません。

またこの遺伝子治療によって、どのくらい目的とする遺伝子が、がん細胞の中に届いているのかについても明らかになっていません。

そこで、今回の遺伝子治療臨床研究を受けられる患者さんの細胞に、目的としているウイルス酵素の遺伝子が、治療後、どの程度存在しているのかを、生検細胞によって検討させていただきたいと考えています。

3. 前立腺針生検の方法とスケジュールについて

前立腺針生検の方法ですが、肛門から超音波プローブと呼ばれる機器を挿入し、超音波で前立腺の内部を観察した後、直腸の内側から直径約1.5 mmの針を前立腺に向かって刺し、前立腺の組織を採取します（図1）。

検査は約30分で終了します。検査後は病室で安静にさせていただきますが、強い出血や発熱がなければ、検査後の歩行などは自由です。食事についても、普段通りに食べられます。

検査を行なう前と後に、抗生剤を点滴で投与し、その後3日間、抗生剤を飲んでいただきます。食事の制限は特にありません。

検査の予定日は、2回目のベクター投与後から2日目、または3日目に予定しております。